

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4472400136		
法人名	有限会社 きらく苑		
事業所名	グループホーム きらく苑(すずらん)		
所在地	大分県 大分市大字馬場287番地		
自己評価作成日	平成30年3月1日	評価結果市町村受理日	平成30年6月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成30年4月5日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

きらく苑では利用者本位とチームワークをモットーに日々支援をしています。お一人お一人の「その人らしく生きる姿」を職員、地域、ご家族様全員で支え、自宅にいるときと変わらない、生活をしています。日々の外出や、調理、掃除、洗濯を皆で行い、有する能力の応じ、役割を持って頂き、何歳になっても生きがいややりがいを感じて頂けるようにしています。  
職員の研修にも力を入れ、入社したその日からきらく苑の理念、方針、職場のルールや、組織図、認知症の理解等の研修をし、一から行い、職員全員が同じ方向を向いて仕事をする様にしています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

- ・利用者本位に、その人らしさの見える暮らしの支援に取り組んでいる。
- ・3食とも手作りの食事を提供している。利用者の好みや希望を取り入れ、栄養士が献立を作成している。馴染みの店に外食に出かける等、食事を楽しむ支援に取り組んでいる。
- ・人材育成に力を入れており、職員の外部研修参加や資格取得を奨励している。
- ・職員間のチームワークを大切にして、チームケアの連携を図っている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に皆で理念を復唱し、常に理念にそって仕事を遂行できるようにしている。	経営者の交代に伴い、「自分でできる喜び、社会の一員として支え合う、その人らしさを大切に支援する」という理念を新たに作成している。職員会議の中で振り返りながら、理念を共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週に3回の食品の買い物や、近くのお店へ歩いて買い物に出かける。美容室も行きつけの美容室に向き馴染みの方と触れ合っ頂く。通院も一人一人通い、地域との交流を閉ざさないようにしている。	地域の祭りや防災訓練などの行事に利用者と一緒に参加している。餅つき大会や敬老会等の事業所主催の行事に、地域のボランティアの協力を得る等、双方向の交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のお祭りや行事に参加したり、日々の買い物や外出をし、認知症の方に接している姿を見ていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様がどの様な所に外出すると喜ばれるのかを話し合ったり、地域の行事への参加や、きらく苑での行事にも地域の方を招待し、参加や、ボランティアに来ていただいている。	会議参加者より、地域の情報をもらいながら、地域交流に活かしている。認知症ケアについて説明し、事業所の取り組みへの理解を深めており、ボランティアや地域との交流を深める等、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	大分市の長寿福祉課へ分からない事や、訪ねたい事を良く連絡し連携をとり、ケアサービスへ活かしている。	市担当者や地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加している。メールや電話、直接窓口に出向くなど、情報交換を行いながら、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は夜間以外は施錠せず、出たい時に外に出られる様に徹底している。外部の研修に参加したり、定期的に施設内研修を行い、職員全員が統一の理解ができるよう身体拘束やその他の拘束についても研修をしている。	身体拘束を例外なく行わない方針である。全職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解できるよう、外部研修や施設内研修を積極的に取り組み、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行い、虐待防止につとめている。入浴介助を交代で行い、体の観察や、本人からの聞き取り等も行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に身寄りのない方や、要望があった時などは、成年後継人制度の説明に管理者と外部の方からも分かりやすく説明をさせて頂く様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に書面をもって説明しており、強制せず、相談しやすい環境を作り納得して頂く様に努めている。また、介護保険の改定や、加算申請の時等も説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族様のご要望は順次対応している。その事を朝礼や夕礼時に職員へ伝える。ご家族様へは家族会や、運営推進会議、ご面会時にも伝え、話しやすい環境作りを大切にしている。	日々の暮らしの中で、本人の意見を聞いている。家族の面会時や電話でその日の出来事を伝えながら、意見を聞くようにしている。もらった意見は職員会議で話し合い、反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回は全体会議を行い、必ず、参加してもらい、意見を出し合い、職員全員で同じ方向を向いてケアに臨むようにしている。必ず、モニタリングを行い、忠実に遂行できているか、確認をとっている。	年4回個別面談で意見を聞く機会を設けている。「気づきノート」に職員の気づきや意見を記入し、会議で検討して運営に反映させる仕組みを作っている。職員は積極的に意見を出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に4回の職員面接を行い、どのくらいの実績を残しているか、また業務中に困った事や、出来ている所、その方の家庭環境、自らの給料についてどの様な考えなのかを確認している。研修費用、資格習得費用は事業所にて負担し、常に研修や、職場でのやりがいに繋がる様に工夫をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員は入社日から研修に入ってもらい。職員研修は、外部の研修はもちろん、外部の講師をお願いしたり、施設内研修にも取り組んでいる。一人ひとりの力量を把握すること、チームの力をレベルアップさせる事を常に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分県小規模ネットワークに加入し、合同研修会やイベントに参加をしている。他の施設へ見学に伺ったり、またきらく苑に来て見学していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前より、きらく苑にお昼ご飯だけ食べにきていただいたり、またご自宅や、病院等へ何度かお伺いをし、顔みしりになって頂く事から始める。安心して入所へ踏み込める様に今までの生活環境や、生活習慣をお聞きし、なるべくきらく苑への生活の環境を整える。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家庭での過ごし方や、ご家庭の状況を考慮し、ご家族とも一緒にその方の事を考え、信頼関係を大切にして、要望が言いやすい関係を築く様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護保険の他のサービスの説明や他施設の見学もお勧めし、体験入所を活用して頂いたり、日中のみ過ごしてみたり、利用者様のペースに合わせています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様ができる事は一緒に行い、役割を持って頂き、職員は必ず感謝をお伝えしています。また、人生の先輩として色々な場面で教えて頂き、利用者様から教わった事(調理等)を活動に入れております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族様へ生活のご様子をお伝えしたり、ご家族様への協力のお願ひ等も行ったり、時には、ご自宅のお掃除等に帰ったりし、その人の暮らしの中に入ったケアをしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	昔から通い続けたスーパーや、美容室、近所の方のご自宅へお茶菓子を持って遊びに行ったり、ご自宅に居た時と変わらない生活を送って頂く様に生活をしています。	本人が大切にしてきた馴染みの関係を把握している。自宅訪問や、馴染みの商店やレストラン等に出かけ、知人との交流の機会を持つよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事作りや、洗濯、昔の話等を利用者様同士で支えながら行う事が多いです。時には利用者様同士でケンカになる事もありますが、必ず職員が間に入り、両方のお話を十分に聞く等し支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所に至っている利用者様は居ませんが、これからの取り組みとして、運営推進会議に参加して頂いたり、催し物がある時などはお誘いして、関係性を大切にしていきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様本位を施設内で行うと自然と利用者様より要望が多くなってきます。その為、全職員が利用者本位を実施し、いつでも言いたい事を言う様にしています。困難な場合は表情やうなずき、目の動きからくみ取っています。また完全に意思表示が出来なくなった場合でも、以前の情報に目を向け、どんな食べ物が好きなのか、どんな時がリラックスできていたのか等を調べ、なるべくその人らしい生活を送って頂く様にしています。	日々の暮らしの中での本人の言葉を大切にしている。家族や知人の面会時に、これまでの暮らしぶりを聞き、思いや意向の把握に努めている。 把握した本人の思いを記録し、共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、その時のケアマネージャーやご家族、両者様から入居前に何度も会って情報を把握している。また、入居中であってもご家族様、利用者様のお友達やご近所の方がご面会に来られた際にも入居前のご様子をお聞きしたり、昔の頃の写真を持って来て頂き、どの様な暮らしで人生を送って来たのか、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日4回申し送りを行い、職員全員が両者様の事を把握できるようにしています。個人の有する力を見極め、一人ひとりが役割を持ち生活できるように配慮しています。その中できらく苑で生活をする喜びを感じて頂く様に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者も業務に入り、利用者様と過ごす事でお一人お一人のケアプランを作成ステイます。ご本人、主治医、職員、ご家族様、それぞれの意見や、思いをくみ取り、実践できるケアプランを作成している。	月1回の会議で振り返り、定期的なモニタリング、計画の見直しを行っている。アセスメント表に、暮らしの場面ごとの本人や家族の意見、スタッフの意見を記入し詳細な計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フェイスシートや日々の記録を個別にし、いつでも職員が見る事のできる様にしている。また、ご家族様より記録の観覧を要望された場合も観覧して頂く。月に2回全体会議を行い、日々の様子や、実践、結果気づきや工夫を皆で話し合うz館を設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療の連携はもちろん、利用者様お一人お一人の望む生活を送って頂くため、行きたいところに職員も一緒に行ったり等、可能な限り、利用者様に寄り添う様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等で民生委員の方や、老人会会長の方に地域まお祭りや、イベント、サロン活動をお聞きし参加したり、地域のスーパー、八百屋、美容院、に日々の生活の中で出向き、地域の方と一緒に利用者様を支援している。また、お互いに支え合っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族様の希望する病院の受診をしています。かかりつけ医には日頃より利用者様の状況報告を行い、信頼関係を気づきながら、関係性を作っています。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。通院時に職員が付き添い、現状報告と支援の在り方を聞いている。看護師資格を持つ職員を中心に情報の共有、支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は非常勤勤務で来られ、看護師が不在の日は日中、夜間とも電話対応もしている。いつでも相談できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より、地域での介護の研修や、病院での研修に出向き、医師、ソーシャルワーカー、看護師との方と、相談や連携、情報交換ができる様にしている。そのため入退院がスムーズにできている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時と重症化や終末期にご家族やご本人のご意向を確認している。延命治療を受ける、受けないにしろ、ご家族、かかりつけ医と密に連絡を取り、本人はもちろん、ご家族の心にも寄り添いながら、話し合っていく。医療面でもかかりつけ医に相談し、最後までその人らしく生きれるように支援していく。	入居時に、終末期の在り方について話し合っている。また、状況の変化に応じて、繰り返し話し合う機会を持っている。一人ひとりの方針について、全職員で共有し支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作り、施設内研修をする。外部研修にも参加させて頂き、かかりつけ医の携帯番号を教えて頂いているので、いつでも相談できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防設備点検業者とスプリンクラー等の点検、通報、避難訓練、消火訓練を業者、職員、利用者と一緒に、非常食や石油ストーブ、発電機、等も準備している。きらく苑は馬場地区でも海拔14mですが、地域住民の方も避難できるように、防災グッズや水を多めに備蓄してある。	年2回、避難訓練を行っている。地域の防災訓練に利用者と共に参加している。運営推進会議で、災害時には地域の人を受け入れる提案をする等、地域との協力体制を築いている。災害時の備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は個室になっており、利用者様のプライバシーを守っている。職員は必ず、名前をささずけで呼び、あだ名では呼ばないところから研修を行っている。一人ひとりに人格や人としての尊重をする事を方針としている。新任研修から1番に伝える。	一人ひとりの尊厳を守るケアを理念に掲げている。尊厳を守る大切さを研修や会議の中で伝えながら、誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日のおやつドリンクメニューや食べたいものはその方を選んでもらい、提供している。また、入浴や、起床の時間もきらく苑では作らず、行きたい場所や、やりたい事をして頂き、少しでも自己決定ができる様にしている。その人らしく生きて頂こうと支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、入浴、食事、トイレ、就寝の時間は決まっておらず、お一人お一人に合わせて、またはこちらからお尋ねしたりし、生活して頂いている。「もう帰る。」と言って玄関より外出されても無理に止めたりせずその方に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の衣替えは職員と一緒にいき、美容院などにもカットやパーマをかけに出かけている。ご自宅に衣類を取りに外出されることもある。季節ごとに衣類を買いに出かけたり、日々の買い物でもいつでも衣類や化粧品やボディクリーム等買いに出かけられる環境を作っている。マニキュアや、エステ、ハンドマッサージを受けにいたり、施設へ業者や、ボランティアの方に来て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みは会話の中でお聞きしたり、ご家族に伺って聞いている。誕生日の日等にお好きなものを食べて頂いたり、日ごろの調理を利用者様と行き、好きなものを食べて頂いている。	食事中は職員も食卓につき、会話の中から一人ひとりの好みや力を把握している。一緒に準備、調理をする人もいる。栄養士が献立を作成しているが、利用者のリクエストメニューも取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が少なくなってきた方には食べやすい様に食事を工夫したり、好きなものを食べて、飲んで頂いている。記録の中に水分量を書き込む様にしており、水分量を把握しやすくしている。終末期の方はご家族とかかりつけ医と相談しながら食事を食べて頂く。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日三回毎食後に口腔ケアを行い、お一人お一人に合わせて介助を行っている。口腔内の状態が悪くなれば歯科受診や往診に来ていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は布パンツで過ごせる方は過ぎて頂き、職員はトイレサインを見逃さないように声掛けしトイレへご案内をしたり、オムツは日中、夜間を通して使わない様になっている。	排泄パターンを記録し、声掛け誘導している。出来るだけ紙オムツを使わないよう支援している。日中は布パンツのみの方も多く、自立に向けた支援していく中で排尿感覚の戻ってきた人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、ヨーグルトの提供や、運動、マッサージ等行っています。なるべくなら、緩下剤を使わなくて良い様に食事や水分量を把握し、自然に排泄できる様に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・曜日を定められ入浴される方もいますが、入りたいと希望される時に入浴するように支援しています。入浴時間もその方に合わせ、ゆっくり入浴して頂いています。	週3~6回の入浴となっている。本人の希望に沿って、いつでも入浴できるよう毎日準備をしている。夜間の入浴も支援している。入浴を嫌がる人と温泉施設に出かける等、入浴を楽しむ支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方が眠たくなったら眠って頂いています。眠前薬もほぼ飲んでおらず、夜間も良くやすまれています。寝具や枕はご自宅で使っているものを持って来て頂き、少しでも落ち着ける雰囲気作りをしています。アロマオイル等の導入も希望者には行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新薬や薬の変更があった場合は必ず引継ぎノートにて職員全員に周知してもらっています。お一人お一人の服薬内容はケア会議で取り扱い、職員で把握できる様にしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を通して、利用者様に役割を持って頂いている。たとえ思うようにできなくても寛大な感謝の気持ちをお伝えしている。好きなものや楽しみごとはボランティアをお呼びしたり、また外出を行い、気分転換して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃より外出に行きたいと申される方はその場に行きたくて頂く。ご自分で言えない方はこちらから提案させていただいたり、ご家族に尋ねたりし、思い出がある場所や、ご自宅、お友達の家遊びに行ったりするように支援している。大分の駅ビルや、パークプレイス、ラーメン屋等も良く外出をしている。	一人ひとりの希望を大切に支援している。散歩や庭の草花を楽しんだり、気候の良い時期に中庭でお茶を飲むこともある。温泉や地域の祭り、季節の花見や外食等のドライブや、自宅訪問等個別の支援も行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でおこずかい程度ですが管理できる方は財布に入れて持って頂き、お買い物の時やご要望の時に財布を渡す方もいます。外出も多く行くため、お一人お一人づつ買い物をしています。できるだけお支払いなど、介助をしながら行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人、お店や新聞の応募はがきを送られたり、季節ごとに地元の特産品をご家族や知人に送られたり、ご兄弟に金銭を送られたりされる方もいらっしゃいます。年賀状や暑中見舞いも毎年利用者様より送られる支援をしています。電話は月に1回程ですがこちらから声掛けをし支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や気温・温度に合わせた空調管理を行い、過ごしやすくしています。居室の電気を落ち着く色に調節できる為活用しています。フローアの壁には季節ごとに壁画を変え、庭にはお花や植木を置いて季節をかんじて頂いています。秋には秋刀魚をベランダで焼いたり、焼き芋大会なども行います。	2つのユニットをつなぐ廊下に面した中庭にイスがあり、くつろぎの場となっている。共有空間は自然の光が入り、静かで落ち着いた空間になっている。リビングにベッドやソファを配置し、思い思いの場所でくつろげるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人で過ごしたい時には居室へご案内をさせて頂いたり、居室にて利用者様同士でお昼寝される事もあります。TV鑑賞もユニットをまたいで鑑賞されたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の中は思い思いに水槽や植木を置かれている方や、ご家族の写真や手紙等を飾っている方もおられます。ご家族様より使いなれたタンスや鏡等自宅で過ごして居たような環境作りをさせて頂いています。	机や椅子、ソファなど、使い慣れたものを配置している。植物を育てる人など、その人らしさの見える居室で、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	炊事の特異な利用者には炊事をして頂いたり、掃除、洗濯の好きな方は掃除洗濯等お一人お一人に合わせて自立した生活を行っています。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472400136		
法人名	有限会社 きらく苑		
事業所名	グループホーム きらく苑(たんぼぼ)		
所在地	大分県 大分市大字馬場287番地		
自己評価作成日	平成30年3月1日	評価結果市町村受理日	平成30年6月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成30年4月5日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

きらく苑では利用者本位とチームワークをモットーに日々支援をしています。お一人お一人の「その人らしく生きる姿」を職員、地域、ご家族様全員で支え、自宅にいるときと変わらない、生活をしています。日々の外出や、調理、掃除、洗濯を皆で行い、有する能力の応じ、役割を持って頂き、何歳になっても生きがいややりがいを感じて頂けるようにしています。職員の研修にも力を入れ、入社したその日からきらく苑の理念、方針、職場のルールや、組織図、認知症の理解等の研修をし、一から行い、職員全員が同じ方向を向いて仕事をする様にしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【グループホーム きらく苑(すずらん)に記載】

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に皆で理念を復唱し、常に理念にそって仕事を遂行できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週に3回の食品の買い物や、近くのお店へ歩いて買い物に出かける。美容室も行きつけの美容室に出向き馴染みの方と触れ合っけて頂く。通院も一人一人通い、地域との交流を閉ざさないようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のお祭りや行事に参加したり、日々の買い物や外出をし、認知症の方に接している姿を見ていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様がどの様な所に外出すると喜ばれるのかを話し合ったり、地域の行事への参加や、きらく苑での行事にも地域の方を招待し、参加や、ボランティアに来ていただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	大分市の長寿福祉課へ分からない事や、訪ねたい事を良く連絡し連携をとり、ケアサービスへ活かしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は夜間以外は施錠せず、出たい時に外に出られる様に徹底している。外部の研修に参加したり、定期的に施設内研修を行い、職員全員が統一の理解ができるよう身体拘束やその他の拘束についても研修をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行い、虐待防止につとめている。入浴介助を交代で行い、体の観察や、本人からの聞き取り等も行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に身寄りのない方や、要望があった時などは、成年後継人制度の説明に管理者と外部の方からも分かりやすく説明をさせて頂く様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に書面をもって説明しており、強制せずに、相談しやすい環境を作り納得して頂く様に努めている。また、介護保険の改定や、加算申請の時等も説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族様のご要望は順次対応している。その事を朝礼や夕礼時に職員へ伝える。ご家族様へは家族会や、運営推進会議、ご面会時にも伝え、話しやすい環境作りを大切にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回は全体会議を行い、必ず、参加してもらい、意見を出し合い、職員全員で同じ方向を向いてケアに臨むようにしている。必ず、モニタリングを行い、忠実に遂行できているか、確認をとっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に4回の職員面接を行い、どのくらいの実績を残しているか、また業務中に困った事や、出来ている所、その方の家庭環境、自らの給料についてどの様な考えなのかを確認している。研修費用、資格習得費用は事業所にて負担し、常に研修や、職場でのやりがいに繋がる様に工夫をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員は入社日から研修に入ってもらう。職員研修は、外部の研修はもちろん、外部の講師をお願いしたり、施設内研修にも取り組んでいる。一人ひとりの力量を把握すること、チームの力をレベルアップさせる事を常に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分県小規模ネットワークに加入し、合同研修会やイベントに参加をしている。他の施設へ見学に伺ったり、またきらく苑に来て見学していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前より、きらく苑にお昼ご飯だけ食べに来ていただいたり、またご自宅や、病院等へ何度かお伺いし、顔みしりになって頂く事から始める。安心して入所へ踏み込める様に今までの生活環境や、生活習慣をお聞きし、なるべくきらく苑への生活の環境を整える。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家庭での過ごし方や、ご家庭の状況を考慮し、ご家族とも一緒にその方の事を考え、信頼関係を大切にして、要望が言いやすい関係を築く様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護保険の他のサービスの説明や他施設の見学もお勧めし、体験入所を活用して頂いたり、日中のみ過ごしてみたり、利用者様のペースに合わせています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様ができる事は一緒に行い、役割を持って頂き、職員は必ず感謝をお伝えしています。また、人生の先輩として色々な場面で教えて頂き、利用者様から教わった事(調理等)を活動に入れております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族様へ生活のご様子をお伝えしたり、ご家族様への協力のお願い等も行ったり、時には、ご自宅のお掃除等に帰ったりし、その人の暮らしの中に入ったケアをしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から通い続けたスーパーや、美容室、近所の方のご自宅へお茶菓子を持って遊びに行ったり、ご自宅に居た時と変わらない生活を送って頂く様に生活をしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事作りや、洗濯、昔の話等を利用者様同士で支えながら行う事が多いです。時には利用者様同士でケンカになる事もありますが、必ず職員が間に入り、両方のお話を十分に聞く等し支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所に至っている利用者様は居ませんが、これからの取り組みとして、運営推進会議に参加して頂いたり、催し物がある時などはお誘いして、関係性を大切にしていきます。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様本位を施設内で行うと自然と利用者様より要望が多くなってきます。その為、全職員が利用者本位を実施し、いつでも言いたい事を言える様にしています。困難な場合は表情やうなずき、目の動きからくみ取っています。また完全に意思表示が出来なくなった場合でも、以前の情報に目を向け、どんな食べ物が好きなのか、どんな時がリラックスできていたのか等を調べ、なるべくその人らしい生活を送って頂く様にしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、その時のケアマネージャーやご家族、両者様から入居前に何度も会って情報を把握している。また、入居中であってもご家族様、利用者様のお友達やご近所の方がご面会に来られた際にも入居前の様子をお聞きしたり、昔の頃の写真を持って来て頂き、どの様な暮らしで人生を送って来たのか、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日4回申し送りを行い、職員全員が両者様の事を把握できるようにしています。個人の有する力を見極め、一人ひとりが役割を持ち生活できるように配慮しています。その中できらく苑で生活をする喜びを感じて頂く様に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者も業務に入り、利用者様と過ごす事でお一人お一人のケアプランを作成ステイます。ご本人、主治医、職員、ご家族様、それぞれの意見や、思いをくみ取り、実践できるケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フェイスシートや日々の記録を個別的にし、いつでも職員が見る事のできる様にしている。また、ご家族様より記録の観覧を要望された場合も観覧して頂く。月に2回全体会議を行い、日々の様子や、実践、結果気づきや工夫を皆で話し合うz館を設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療の連携はもちろん、利用者様お一人お一人の望む生活を送って頂くため、行きたいところに職員も一緒に行ったり等、可能な限り、利用者様に寄り添う様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等で民生委員の方や、老人会会長の方に地域まお祭りや、イベント、サロン活動をお聞きし参加したり、地域のスーパー、八百屋、美容院、に日々の生活の中で出向き、地域の方と一緒に利用者様を支援している。また、お互いに支え合っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族様の希望する病院の受診をしています。かかりつけ医には日頃より利用者様の状況報告を行い、信頼関係を気づきながら、関係性を作っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	j看護師は非常勤務で来られ、看護師が不在の日は日中、夜間とも電話対応もしている。いつでも相談できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より、地域での介護の研修や、病院での研修に出向き、医師、ソーシャルワーカー、看護師との方と、相談や連携、情報交換ができる様にしている。そのため入退院がスムーズにできている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時と重症化や終末期にご家族やご本人のご意向を確認している。延命治療を受ける、受けないにしろ、ご家族、かかりつけ医と密に連絡をとり、本人はもちろん、ご家族の心にも寄り添いながら、話し合っていく。医療面でもかかりつけ医に相談し、最後までその人らしく生きられるように支援していく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作り、施設内研修をする。外部研修にも参加させて頂き、かかりつけ医の携帯番号を教えて頂いているので、いつでも相談できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防設備点検業者とスプリンクラー等の点検、通報、避難訓練、消火訓練を業者、職員、利用者と一緒に、非常食や石油ストーブ、発電機、等も準備している。きらく苑は馬場地区でも海拔14mですが、地域住民の方も避難できるように、防災グッズや水を多めに備蓄してある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は個室になっており、利用者様のプライバシーを守っている。職員は必ず、名前をさんずけで呼び、あだ名では呼ばないところから研修を行っている。一人ひとりに人格や人としての尊重をする事を方針としている。新任研修から1番に伝える。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日のおやつドリンクメニューや食べたいものはその方を選んでもらい、提供している。また、入浴や、起床の時間もきらく苑では作らず、行きたい場所や、やりたい事をして頂き、少しでも自己決定ができる様になっている。その人らしく生きて頂こうと支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、入浴、食事、トイレ、就寝の時間は決まっておらず、お一人お一人に合わせて、またはこちらからお尋ねしたりし、生活して頂いている。「もう帰る。」と言って玄関より外出されても無理に止めたりせずその方に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の衣替えは職員と一緒にいき、美容院などにもカットやパーマをかけに出かけている。ご自宅に衣類を取りに外出されることもある。季節ごとに衣類を買いに出かけたり、日々の買い物でもいつでも衣類や化粧品やボディクリーム等買いに出かけられる環境を作っている。マニキュアや、エステ、ハンドマッサージを受けにいたり、施設へ業者や、ボランティアの方に来て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みは会話の中でお聞きしたり、ご家族に伺って聞いている。誕生日の日等にお好きなものを食べて頂いたり、日ごろの調理を利用者様と行き、好きなものを食べて頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量が少なくなってきた方には食べやすい様に食事を工夫したり、好きなものを食べて、飲んで頂いている。記録の中に水分量を書き込む様にしており、水分量を把握しやすくしている。終末期の方はご家族とかかりつけ医と相談しながら食事を食べて頂く。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日三回毎食後に口腔ケアを行い、お一人お一人に合わせて介助を行っている。口腔内の状態が悪くなれば歯科受診や往診に来ていただいている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は布パンツで過ごせる方は過ごして頂き、職員はトイレサインを見逃さないように声掛けしトイレへご案内をしたり、オムツは日中、夜間を通して使わない様にしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、ヨーグルトの提供や、運動、マッサージ等行っています。なるべくなら、緩下剤を使わなくて良い様に食事や水分量を把握し、自然に排泄できる様に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・曜日を定められ入浴される方もいますが、入りたいと希望される時に入浴するように支援しています。入浴時間もその方に合わせ、ゆっくり入浴して頂いています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方が眠たくなったら眠って頂いています。眠前薬もほぼ飲んでおらず、夜間も良くやすまれています。寝具や枕はご自宅で使っているものを持って来て頂き、少しでも落ち着ける雰囲気作りをしています。アロマオイル等の導入も希望者には行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新薬や薬の変更があった場合は必ず引継ぎノートにて職員全員に周知してもらっています。お一人お一人の服薬内容はケア会議で取り扱い、職員で把握できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を通して、利用者様に役割を持って頂いている。たとえ思うようにできなくても寛大な感謝の気持ちをお伝えしている。好きなものや楽しみごとはボランティアをお呼びしたり、また外出を行い、気分転換して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃より外出に行きたいと申される方はその場に行きたくて頂く。ご自分で言えない方はこちらから提案させていただいたり、ご家族に尋ねたりし、思い出がある場所や、ご自宅、お友達の家に遊びに行ったりするように支援している。大分の駅ビルや、パークプレイス、ラーメン屋等も良く外出をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でおこずかい程度ですが管理できる方は財布に入れて持って頂き、お買い物の時やご要望の時に財布を渡す方もいます。外出も多く行くため、お一人お一人づつ買い物をしています。できるだけお支払いなど、介助をしながら行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人、お店や新聞の応募はがきを送られたり、季節ごとに地元の特産品をご家族や知人に送られたり、ご兄弟に金銭を送られたりされる方もいらっしゃいます。年賀状や暑中見舞いも毎年利用者様より送られる支援をしています。電話は月に1回程ですがこちらから声掛けをし支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や気温・温度に合わせた空調管理を行い、過ごしやすくしています。居室の電気を落ち着く色に調節できる為活用しています。フローアの壁には季節ごとに壁画を変え、庭にはお花や植木を置いて季節をかんじて頂いています。秋には秋刀魚をベランダで焼いたり、焼き芋大会なども行います。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人で過ごしたい時には居室へご案内をさせて頂いたり、居室にて利用者様同士でお昼寝される事もあります。TV鑑賞もユニットをまたいで鑑賞されたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の中は思い思いに水槽や植木を置かれている方や、ご家族の写真や手紙等を飾っている方もおられます。ご家族様より使いなれたタンスや鏡等自宅で過ごして居たような環境作りをさせていただいています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	炊事の特異な利用者には炊事をして頂いたり、掃除、洗濯の好きな方は掃除洗濯等お一人お一人に合わせて自立した生活を行っています。		